令和５年度教育課程研究集会
中学校　音楽

音楽科における「指導と評価の一体化」を進める授業改善

―「主体的に学習に取り組む態度」の評価の充実―

令和５年８月

奈良県教育委員会事務局
学ぶ力はぐくみ課　教育統計係
指導主事　鳥羽　愛

音楽科において育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

（１）曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

（２）音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

（３）音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力、人間性等

資質・能力の育成を目指す題材構想の考え方

- 授業は、教材を学ぶだけではなく、その教材を用いた学習を通して資質・能力を身に付けるものである。

- 身に付けた資質・能力は、生徒のその後の人生における音楽との関わりをより豊かに幅広くするものである。

- ある教材を用いた学習で身に付けた資質・能力は、他の音楽と関わる際にも活用できるものにすることを念頭に置いた指導を心がける必要がある。

学習評価とは？

学校における教育活動に関し、生徒の学習状況を評価するもの

- 「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価の在り方は重要。

- 教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

評価の基本構造

学習指導要領に示す目標や内容

- 知識及び技能
- 思考力、判断力、表現力等
- 学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況評価の各観点

・観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉えるもの

・観点ごとにＡＢＣの３段階で評価

- 知識・技能
- 思考・判断表現
- **感性**、思いやりなど
- 主体的に学習に取り組む態度

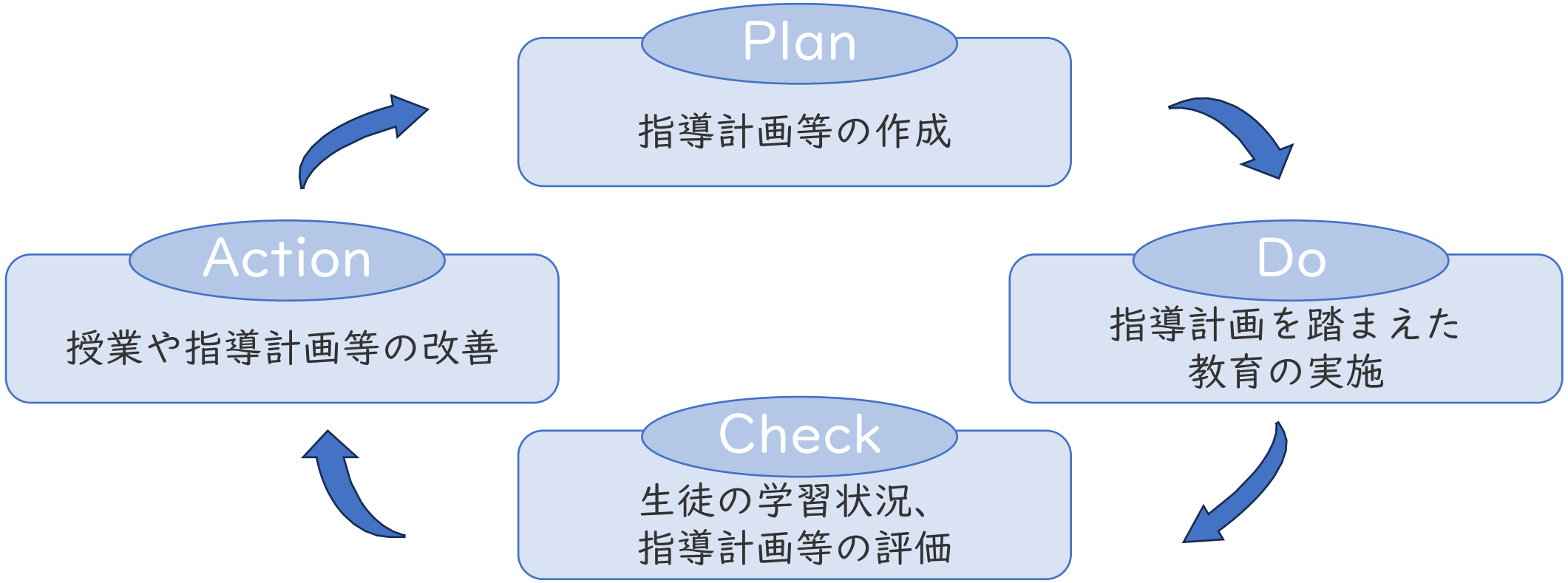
個人内評価

・音楽科の「見方・考え方」の特徴は、知性と感性の両方を働かせて対象を捉えることである。

生徒の感性を豊かにし、創造性を育む上で、教員による生徒一人一人の丁寧な個人内評価が大切である。

評　　定

観点別学習状況の評価の結果を総括するもの。



「指導と評価の一体化」のポイント

① 評価の場面を精選する。

② 評価方法を工夫する。

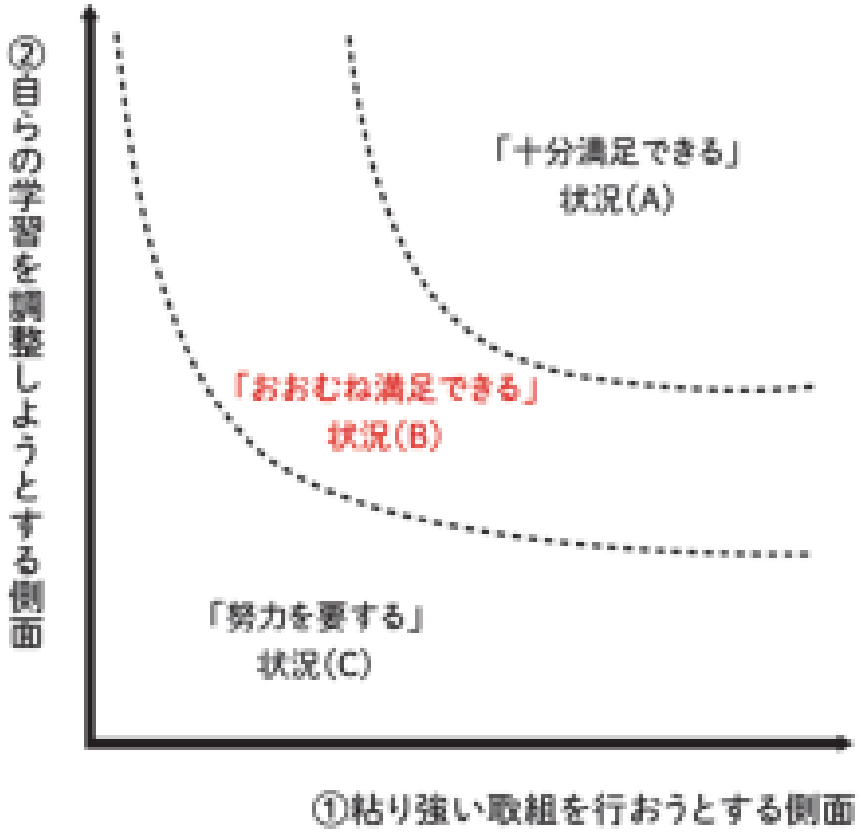
③ 生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確にする。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

音楽科の「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、

① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面



という二つの側面を評価することが求められる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法例

- ノートやレポート等による記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 生徒による自己評価や相互評価等の状況

- 生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

- ノート等における特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。

まとめ

- 生徒の学習状況を適切に評価することができるよう、生徒の実態に応じた授業計画を考えていくことが不可欠。

- 生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面の設定が必要。

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるよう、評価基準を明確にしておくことが重要。